

研究紀要第28号

# 子どもと共に創る生活

—— 子どもの主体性を探る ——

1 9 9 2

島根大学教育学部附属幼稚園

## は じ め に

幼児の生活の主要部分を占める遊びは本来指導されるものではなく、もともと自主的な行動であり、自由で柔軟性に富んだ行動である。それは形になっていなくても、名前のつかない遊びでも、そこにこどもの生き生きとした姿があるならば、それは生きた体験を伴った遊びといってよいであろう。

子どもは遊びを通して自発的に人間形成する存在である。特に仲間との集団遊びは社会性の発達、自立性の発達、情動的充足、身体的能力の発達など総合的な教育価値を持つと考えられて来ている。その際幼稚園での保育は、子どもが保育者の目にわずらわされることなく振舞えると同時に、仲間と共にいたり一人でいたりと多様なあり方が許されるものでなければならない。保育者がむやみに介入することを極力避け、子供の充実した遊びが様々な思いや試行錯誤の中から生れて来ることを期待する。このことにより、子どもは迷うゆとりを保証され、迷いつつ試みた末に自分のやりたいことを見つけて行くことだろう。

しかし、単に「子どもの自由に任せる」というだけでは教育の本質を逸脱する危険をはらんでいる。子ども達のより良い個性を育て、生き生きとした活動や充実した生活を創造して行くために保育者としてどのように援助してやればよいのか？この目的追求のためにこれまで本園では長年に亘って「ひとりひとりを生かす保育」を主題に掲げ研究を続けてきた。今年度はこの保育観を基礎に、主題を「子どもと共に創る生活」と改め、「子どもの主体性」と「保育者の環境の構成」との関わりについて考えて行きたいと思う。

教育とは一方的に教えたり与えたりすることではなく、あくまでも子どもの可能性を見出し、追求する営みである。それ故大人が子どもを信頼し、子どもから学び、応答し合う関係を作っていくことが出発点である。

皆様の率直なご意見、ご批判、ご指導を心からお願いいたします。

平成4年10月

鳥根大学教育学部附属幼稚園長

福 田 悌 次 郎

# 目 次

## 子どもと共に創る生活

### — 子どもの主体性を探る —

#### はじめに

#### 総 論

I 研究主題について	1
主題追究の経過	2
II 副主題「子どもの主体性を探る」(第1年次)研究の基盤	3
1. 新教育要領の主旨の受けとめ方	3
2. 研究の視点とねらい	4
3. 研究の方法	5
III 平成3年度～4年度の研究を通して注視していること	5
1. 子どもの主体性の表われと育ちのみちすじ	5
3歳児・広瀬美美加を中心として観た1期～5期の主体性の表われと育ち	5
自立感にもとづく自律性	7
2. 子どもが見出していく環境と生活の展開	9
ありのままの自然の環境の中で遊びをみつける	9
興味関心から広げていく経験	10
3. 「その子らしさ」の表出・表現と主体性	10
素直な自己表出をする	11
能動的な主体性と受動的な主体性	11
めあてを持つことによって表わされていく主体性	12
4. 子どもの主体性と保育者の「環境の構成」	14
子どもの気持ちや動きに応じて構成していく環境	15
保育者の願いを表わす「環境の構成」	16
一人ひとりの経験や活動の連続と重なりを重視する	19

#### IV 3年課程の教育課程

#### 各 論

1. 3歳児の自己表出する姿に見られる	
主体性と「環境の構成」をめぐる一考察	青木規子……………29
2. 主体性の育ちの過程に見られる受動性と能動性の一考察	坂本千賀子……………73
3. 生き生きとした姿を求めて	星野和美……………105
4. その子らしい表し方と主体性	森山純子……………133
5. 子どもの主体性と遊びの追求	野津道代……………177

— 研 究 同 人 —

園 長	福 田	悌 次 郎
副 園 長	寺 本	和 子
研 修 主 任	野 津	道 代
教 官	森 山	純 子
〃	星 野	和 美
〃	青 木	規 子
〃	坂 本	千 賀 子
講 師	藤 原	和 子
〃	錢 本	房 子